

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1470901438
法人名	医療法人 寛栄会
事業所名	高齢者グループホームカメリア式番館
訪問調査日	2019年3月5日
評価確定日	2019年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成17年12月10日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館			
所在地	(223-0057)			
	横浜市港北区新羽町4092-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	H30年12月29日	評価結果	市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カメラ式番館は竹林や畑などに囲まれた緑豊かな環境の中に立地している。四季を通じて季節を肌で感じることが出来る。天気の良い日には気分転換と運動を兼ねて散歩に出かけ、体力低下予防とともに地域社会と触れ合う機会を設けている。毎日の生活に関わることで、入居者が主体的に関われるよう援助している。個人差のある身体能力の中で一人一人の出来る事、やりたいことを実現できる場を生活の中で提供し、生きがいや達成感を感じることが出来るよう力を注いでいる。ホームで行う誕生会や、クリスマス会などの他、同法人で行われるボランティアによる催しへの参加や地域の催しへの参加など、楽しみも生活に取り入れている。また、ホームの入居者については、同法人の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者とは相談し合えるサポート体制がある。年々変化していく入居者の状態に寄り添いながらその方の可能性、残存能力を活かしその方にとってより良い生活を念頭においた支援をしていきたいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成31年3月5日	評価機関 評価決定日	平成31年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、医療法人寛栄会の経営です。同法人は、法人本部を横浜市港北区新羽町に構え、介護老人保健施設・グループホーム・居宅介護支援センター・診療所を運営しています。いずれの事業所、診療所は同じ港北区新羽町にあることから、災害時にも相互に助け合える距離にあることも法人の強みです。診療所が老人保健施設内に併設しており、急変時にも迅速に対応できる体制が整っています。グループホームは2事業所運営しており、その1つが、ここ「高齢者グループホームカメラ式番館」です。場所は、横浜市営地下鉄「新羽駅」から徒歩15分の丘の斜面にありますが、建物は平屋建てで、敷地も広く、中庭にあるウッドデッキは、洗濯物干し場、お茶会や外気浴の際にも活用しています。敷地内には、大家さんが世話をしてくれている畑もあり、入居者にも収穫の手伝いをして頂き、収穫した喜びや食べる楽しみも感じて頂くように支援しています。

●法人では「①尊敬②慈愛③親切」の3つをサービスの根幹とし、心のケアを重視して、1人ひとりの入居者にとって居心地良く楽しく生活できる場の提供を目指しています。法人の方針を踏まえ、事業所では、毎日の生活に関わることで全てに入居者が主体的に関われるよう援助することをケアの方針としています。自然に恵まれた環境を生かし、四季折々の自然を感じていただけるように日常的に散歩にお連れしたり、入居者にも同行して頂きながら食材の買い出しに行くことで社会性の維持につなげ、調理の手伝いや洗濯物の整理といった家事全般を行って頂くことで、日常生活の支援と生活リハビリに注力したケアに取り組んでいます。また、音楽療法士による週2回の音楽療法を取り入れ、入居者の脳の活性化を促し、心身共に安定した生活が送れるよう支援しています。更に、近くにある同法人の介護老人保健施設には、医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者もおり、サポート体制が充実しているため、入居者や家族にとっても安心出来る環境が整っています。

●運営推進会議は、「カメラ式番館」と合同で行われますが、地域の連合町内会長を始めとして、地域の方々や包括支援センター・家族代表等に加え、近隣の他法人のグループホーム管理者にも参加頂く等、十数名の参加を得て開催されています。事業所の現状・活動報告をプロジェクターを使用して、画面で示しながら説明することで、様子が伝わりやすいように工夫しています。また、多くの方々に参加して頂くことで多方面から地域の情報や意見・提案が頂け、かつ、地域への情報開示にもなっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホームカメラア式番館
ユニット名	A棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にサービスを行っている。	事業所では「利用者の意思の尊重」「家庭的な楽しい生活空間」「家族、地域との触れ合い」の3項目を理念とし、玄関の目に付く場所に掲示することで、職員だけでなく、外部の方が来られた際にも、事業所が大切にしているケアの方針を理解して頂けるようにしています。こられる理念を実現するために、入居者一人ひとりの個性を大切にサービス、近隣の方々との交流・関係作りに取り組んでいます。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の運動会や祭りなど、地域の行事に積極的に参加している。運営推進会議、防災訓練などでは、地域の人々に参加していただいている。	地域の行事には、積極的に参加しています。町内会の運動会等の行事参加をはじめ、お祭りでは神輿が近く同法人の介護老人保健施設に来るので、入居者と見学に行っています。秋に法人本部で行われる椿祭は大々的に開催され、多くの地域の方々と交流する機会になっています。また、事業所の防災訓練には地域の消防団にも参加を頂いています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の人々に施設で行われている認知症ケアの工夫などを紹介している。地域の人々からの質問には丁寧に回答している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子をスライドを使用しわかりやすく説明し、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、外部の方の意見を聞き取る事の出来る場としている。	老番館と合同で行う運営推進会議は、連合町内会長をはじめ、十数名の方の参加を得て開催しています。プロジェクターを使用して入居者の日頃の様子や活動状況を報告する等、実際に写真を提示しながら分かりやすく説明しています。他法人のグループホーム管理者とは相互に運営推進会議に参加し合うことで、情報を共有しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政よりFAXや郵便などで情報提供を受けている。求められる調査には回答している。事務手続きで疑問点があれば、横浜市介護事業指導課や、港北区の担当者に問い合わせをしている。	行政からFAXや郵便等で、研修や講習会の案内、感染症等の情報提供や災害情報を頂いています。逆に防災関係のアンケートなど求められる調査には、協力して回答しています。事務手続きで疑問点があれば、直接または法人を通して、横浜市や港北区役所の担当者に問い合わせして、助言を頂いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で実施している身体拘束防止に関する研修に参加している。職員は入居者に閉塞感を抱かせないようなケアに努めている。玄関については、防犯の観点から施錠をしている。	法人全体で身体拘束防止委員会が定期的開催されており、事業所からも数名の職員が委員として参加し、職員向けに伝達研修を行っています。また、委員会とは別に身体拘束に関する勉強会へ参加や、職員への意識調査アンケートも実施しています。入居者に閉塞感を抱かせないように、心掛けてケアに取り組んでいます。玄関については、防犯の観点から施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で実施している虐待防止に関する研修に参加している。また虐待に関する職員の意識調査を実施し、職員が適切な知識を得られるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で実施している権利擁護に関する制度の研修に参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要と判断される場合は、関係者と相談できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求め、疑問点がないか確認を行うよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には「意見箱」を設置し、意見しやすいように配慮しているほか、運営推進会議では家族の代表者に意見の聞き取りを実施し、運営に反映させている。	契約時に、重要事項説明書に明記している苦情相談窓口等について説明しています。玄関に意見箱を設置する等、意見を出しやすいように配慮しています。運営推進会議では、家族代表として参加頂いている方から意見や要望を聞いています。毎月送付している式番館便りで、入居者の様子を伝えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。また、日常的に管理者が職員の意見を聞くように努めている。	定期的にフロア会議を開催し、業務改善や入居者に対する関わり方等について話し合っています。今年から、各ユニットリーダーの他にトレーナーを配置したことで、より一層職員間のコミュニケーションが取れるようになりました。管理者は、課題があった場合は都度、話し合いの場を設け、全員で解決策を見出すようにしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部には、就業環境について常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修や隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議では地域他グループホームの管理者に委員として参加していただき、交流する機会を設けている。同法人内のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホームでの生活を具体的に詳しく伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。入居前に入居者本人が見学するよう薦めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する初期の段階では、家族との連絡を密におこない、相談には丁寧に答えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が生活していく上でどのような支援が必要なのか、また家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを検討し、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で身支度・入浴・掃除・食事の支度など、出来る事は入居者に行っていただき、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の絆を大切にするために、行事を計画する際には家族の参加と協力をうながしている。また入居者の受診の際にも付き添いをお願いするなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで入居者が生活してきた馴染みの物を持込んでいただき、生活空間の中に取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推奨している。	家族以外に親戚や友人、昔の仕事仲間の面会を歓迎して、馴染みの人との関係を継続出来るように支援しています。家族と一緒に実家に帰ったり、馴染みの店で外食している方もいます。入居前に使っていた家具や食器類の他、写真・アルバムを持込んで頂き、馴染みの物に囲まれて生活出来るように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の郵便物には一筆添えるなどして、これまでの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい料理や行きたい場所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。	入居時のアセスメントで、過去の生活歴や既往歴、ADL等の情報を基に、日々の関りから入居者の意向や希望の把握に努め、職員間でも情報を共有しながら、思いや希望の実現に向けた支援を心がけています。意思表示が困難な方には、生活の様子を注意深く観察し、表情や仕草から生活の意向、身体の不調を読み取り、対応するように努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時に、入居者の生活歴や職業歴、出身地、住んでいた場所などの聞き取りをおこなっている。また入居者との会話の中でも、これまでの暮らしに関する情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動チェック表に、入居者がおこなった家事・レクリエーション・散歩の距離などを記録して、入居者の暮らしの現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員からの聞き取りをもとに、一人一人の適性に合ったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い、常に入居者にとって適正なプランか検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。	入居者及び家族からの要望や職員からの聞き取りを基に、一人ひとりの状態に応じた介護計画を作成しています。概ねADLに変化が起きない場合には、6ヶ月に1回の見直しを基本とし、フロア会議で支援経過を確認し、職員の意見や気づきをサービス内容に反映させています。常に支援経過の検討を行うことで、入居者の現状に即した介護計画で支援が行えるように努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ内にて一日の行動を記録している。入居者についての気付いたことなどは、申し送りノートに記入し、職員内で把握し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や、食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットなど入居者と共に地域に外出したり、自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、月に1回、カメラ診療所による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。	入居時に、かかりつけ医の有無を確認し、事業所の提携医についても説明した後に、家族の意向を尊重して主治医を決めています。提携医のカメラ診療所は近くにある同法人の介護老人保健施設カメラの中に併設しており、毎月1回往診があります。看護師も法人から週1回来て、入居者の体調管理を行っています。歯科は、同法人の介護老人保健施設に歯科医が週3回来ているので、必要な方をお連れして、診て頂いています。法人の口腔ケア委員会にて、毎月1回職員が研修を受け、職員が入居者の口腔ケアを行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による、定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、常時相談できる体制がある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可をとり、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。	重度化や終末期についての指針は、契約時や必要に応じて説明を行っています。同法人の介護老人保健施設では終末期支援も行っており、水分の摂取や食事を摂ることが困難になった段階で、家族との話し合いの場を設け、方向性を検討したうえで、設備や医療面が充実している介護老人保健施設に転居して頂くケースもあります。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会では救急搬送時の手順の確認や救急蘇生法の実践を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所の協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、地域の方・入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の夜間想定避難訓練を行っています。訓練には、地域の消防団や入居者にも参加して頂き、通報・消火・避難誘導訓練を実施しています。山側のユニット(A棟)は土砂災害の危険があり、土砂災害避難訓練も年1回実施しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重した対応には常日頃から心がけ、フロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方については正しい接し方について確認をしている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した対応を日頃から心掛け、会議や申し送り時にも言葉遣いや接し方について相互に確認しています。法人の接遇委員会にも参加し、職員は絶えず入居者への適切な対応を意識してケアに当たっています。今年の職員の勉強会では、接遇に関するワンポイントコーナーがあり、適正な服装・言葉掛けなどについて再度確認を行いました。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには、入居者の要望に耳を傾け、入居者の自己決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、入居者の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員と一緒にしている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来るよう配慮している。	法人の管理栄養士の作成したメニューに沿って、食材の手配や調理を行い、個々の入居者に応じた対応で食事を提供しています。また、糖尿病や高血圧などの病気よっての食事制限にも配慮した食事の提供を行っています。調理の下準備や片付け等の家事は、入居者と一緒に行っています。時には、おやつや食事をお店に食べに行く等の支援も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい入居者には、好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫をしている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な入居者には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。また月1回歯科衛生士による職員への口腔ケア指導が行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な入居者には昼夜トイレの声かけを行い失禁予防に努めている。	排泄チェック表の記入や申し送りで、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心がけた支援を行っています。必要な方には、夜間も定期的に声掛けを行い、失禁防止に努めています。退院後におむつだった方が、布パンツとパッド対応に改善した方もいます。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、各入居者に合った方法を提供している。運動の足りない入居者には散歩を促している。それでも改善しない入居者には医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入浴時間については、入居者の希望に出来るだけそえるようにしている。	週2回の入浴支援を基本とし、特に冬場は、浴室や脱衣所の温度に配慮して、ヒートショックにも留意しながら対応しています。時間は15時以降から入浴して頂くようにしていますが、入居者の希望に合わせて臨機応変に対応し、長風呂を好む方は、脱水症状に注意しながらゆっくりと浸かって頂くようにしています。季節のゆず湯や菖蒲湯等も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。また、リビングで他入居者と過ごす時、自室で一人で過ごす時を自由に選択する事ができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員が薬の効用を認識できるようにしている。服薬の際は、服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力・経験に応じて、食事作り、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、役割を持てるよう配慮している。将棋の出来る入居者には将棋の対局の場を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下を予防すると共に、季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は、家族に協力をお願いをしている。	周辺は自然も多く、散歩に適した環境下にあるため、天気や気候の良い日には、散歩にお連れして、身体機能の低下を予防すると共に、季節を感じて頂けるように支援しています。散歩が難しい方でも、中庭のウッドデッキに出て外気浴をしていただく等、均等に外気に触れる機会を持つように心がけています。庭の植木の水やりを日課にしている方もいます。敷地内の大家さんが世話してくれる畑の野菜の収穫も利用者の楽しみの1つになっています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本的に施設で預かっているが、入居者の希望と、家族の了解があった場合には、入居者の管理能力に応じて所持できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの郵便物は速やかに入居者に渡している。また入居者が手紙を書きたいと希望があった際には、職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンを活用するなどして、時間や気候に即した外光管理を行っている。また、入居者が快適に過ごせるよう、エアコンや扇風機を利用して温度管理を行っている。	リビングはゆったりと広く、ソファも随所に置かれ、各々好きな場所で過ごして頂けるように配慮されています。壁には、行事の際の写真が掲示されています。毎日、朝と昼には掃除を行い、清潔な空間を維持し、西日の強いB棟のリビングは、カーテンで採光を調整しながら快適に過ごせるよう配慮しています。また、エアコンや扇風機を使用しながら温度の管理にも留意しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子の他、ソファがあり、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた調度品や家具、家族の写真などを持ち込んでいただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。	入居者の使い慣れた家具や調度品、家族の写真等を自由に持込んで頂き、家庭生活の延長として過ごして頂けるような居室作りがされています。仏壇を持込んでいる方や孫の大学合格の写真を居室の壁に貼っている方もいます。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。転倒の危険性が高い入居者には職員が歩行の介助を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラ式番館

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	高齢者グループホームカメラア式番館
ユニット名	B棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にサービスを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の運動会や祭りなど、地域の行事に積極的に参加している。運営推進会議、防災訓練などでは、地域の人々に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の人々に施設で行われている認知症ケアの工夫などを紹介している。地域の人々からの質問には丁寧に回答している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日頃の様子をスライドを使用しわかりやすく説明し、入居者の生活をよりよく知っていただけるよう努めている。また、外部の方の意見を聞き取る事の出来る場としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政よりFAXや郵便などで情報提供を受けている。求められる調査には回答している。事務手続きで疑問点があれば、横浜市の介護事業指導課や、港北区の担当者に問い合わせをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で実施している身体拘束防止に関する研修に参加している。職員は入居者に閉塞感を抱かせないようなケアに努めている。玄関については、防犯の観点から施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で実施している虐待防止に関する研修に参加している。また虐待に関する職員の意識調査を実施し、職員が適切な知識を得られるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で実施している権利擁護に関する制度の研修に参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要と判断される場合は、関係者と相談できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書や契約書の内容を一つ一つ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求め、疑問点がないか確認を行うよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には「意見箱」を設置し、意見しやすいように配慮しているほか、運営推進会議では家族の代表者に意見の聞き取りを実施し、運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。また、日常的に管理者が職員の意見を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部には、就業環境について常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修や隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議では地域他グループホームの管理者に委員として参加していただき、交流する機会を設けている。同法人内のグループホームとも情報交換を積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホームでの生活を具体的に詳しく伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。入居前に入居者本人が見学するよう薦めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する初期の段階では、家族との連絡を密におこない、相談には丁寧に答えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が生活していく上でどのような支援が必要なのか、また家族が何を求めているのかを考慮し、当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを検討し、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む中で身支度・入浴・掃除・食事の支度など、出来る事は入居者に行っていただき、職員は足りない所をサポートするような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の絆を大切にするために、行事を計画する際には家族の参加と協力をうながしている。また入居者の受診の際にも付き添いをお願いするなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、これまで入居者が生活してきた馴染みの物を持込んでいただき、生活空間の中に取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推奨している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場面で、散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。入居者同士でうまくコミュニケーションが取れない場合は職員が間に入り、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の郵便物には一筆添えるなどして、これまでの関係を長く継続できるような関係づくりに配慮している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい料理や行きたい場所など、日々の会話から聞き取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時に、入居者の生活歴や職業歴、出身地、住んでいた場所などの聞き取りをおこなっている。また入居者との会話の中でも、これまでの暮らしに関する情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動チェック表に、入居者がおこなった家事・レクリエーション・散歩の距離などを記録して、入居者の暮らしの現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員からの聞き取りをもとに、一人一人の適性に合ったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い、常に入居者にとって適正なプランか検討している。多数の職員が集まるフロア会議で状況確認を行い、職員個々の意見をサービス内容に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ内にて一日の行動を記録している。入居者についての気付いたことなどは、申し送りノートに記入し、職員内で把握し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ職員や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や、食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットなど入居者と共に地域に外出したり、自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。入居後は、月に1回、カメラ診療所による訪問診療で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所との医療連携を行っており、医療連携看護師による、定期的な入居者の健康管理を行っている。入居者の健康状態については、常時相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を病院関係者に伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可をとり、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意事項の聞き取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については必要に応じて、説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応について知識を高めている。勉強会では救急搬送時の手順の確認や救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所の協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では、地域の方・入居者も参加し、通報・消火・避難誘導の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重した対応には常日頃から心がけ、フロア会議・申し送り等を通じ職員の言葉遣いや接し方については正しい接し方について確認をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには、入居者の要望に耳を傾け、入居者の自己決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示し、選んでいただく等の工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声かけを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子から、入居者の好む色や組み合わせを把握し、日常の洋服選びでは、気持ちよく過ごせる着まわしを提案している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員と一緒にしている。基本の献立はあるが、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が出来るよう配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい入居者には、好みの飲み物の提供や嚥下を理解した形態の工夫をしている。食事量の少ない方には声かけや介助を行い、食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な入居者には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期に発見し、歯科受診を行えるよう努めている。また月1回歯科衛生士による職員への口腔ケア指導が行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。必要な入居者には昼夜トイレの声かけを行い失禁予防に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・排便効果のあるヨーグルト・冷たい牛乳の摂取など、各入居者に合った方法を提供している。運動の足りない入居者には散歩を促している。それでも改善しない入居者には医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入浴時間については、入居者の希望に出来るだけそえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。また、リビングで他入居者と過ごす時、自室で一人で過ごす時を自由に選択する事ができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より薬が処方された時は、薬の内容を申し送り、職員が薬の効用を認識できるようにしている。服薬の際は、服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力・経験に応じて、食事作り、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、役割を持てるよう配慮している。将棋の出来る入居者には将棋の対局の場を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下を予防すると共に、季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は、家族に協力をお願いをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本的に施設で預かっているが、入居者の希望と、家族の了解があった場合には、入居者の管理能力に応じて所持できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの郵便物は速やかに入居者に渡している。また入居者が手紙を書きたいと希望があった際には、職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンを活用するなどして、時間や気候に即した外光管理を行っている。また、入居者が快適に過ごせるよう、エアコンや扇風機を利用して温度管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子の他、ソファがあり、入居者が自由に過ごしている。共有部分でも一人になれる場があり、自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた調度品や家具、家族の写真などを持ち込んでいただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活できるようにしてある。転倒の危険性が高い入居者には職員が歩行の介助を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラア式番館

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。